

つくしだより



平成24年6月号

東京都精神障害者家族会連合会
(東京つくし会)
〒156-0056
世田谷区八幡山3-33-1
林マンション202
TEL/FAX:03-3304-1108
発行者 野村忠良
2012.6.15 第264号

こころの健康を守り推進する 基本法(仮称)の法制化に 向けた動き

都連副会長 小笠原勝二

平成20年4月に「こころの健康政策構想会議」が発足し、当事者・家族を含む国民のニーズに基づく精神医療改革を求める政策提言書をまとめ、厚生労働大臣に提出しました。その後7月に「こころの政策構想実現会議」と改名、法制化に向けた組織に改め、「こころの健康構想会議」がまとめた提言にある「こころの健康を守り推進する基本法(仮称)」の制定を求める100万人署名活動を新宿駅前での活動を皮切りに全国的に展開し、広く国民の理解を得ることができました。また同時に地方議会に働きかけ「こころの健康を守り推進する基本法(仮称)」(以下、「こころの健康基本法と呼称」)の制定を求める「意見書」採択の取り組みを行ってきました。これらの活動には皆様のご協力を仰ぎながら都連も積極的にかかわってきました。

おかげをもちまして署名は都道府県全域から集まり72万筆を超えました。もちろん、これには都連の呼びかけに答えていただいた皆様からの2

9,132筆も含まれています。また皆様には多くの地域自治体議会に意見書採択の陳情書を出していただきました。都内の実績は、都議会を含む54議会中、67%の37議会で採択されました。

また全国の地方議会でも国会へ法制化を希望する意見書を採択された数は都内の数も含め226議会となりました。この226議会の意味するところは20府県議会、3政令都市および44市町村の地域が傘下に入り、その人

東京都内の意見書採択の状況

5月18日現在

54議会中37議会(67%)で採択

①東京都議会

②区議会 ⇒ 9議会中37議会(67%)で採択

杉並区	葛飾区	足立区	品川区	北区	港区	墨田区
中野区	世田谷区					

③市議会 ⇒ 24議会中24議会(92%)

三鷹市	調布市	武蔵野市	町田市	多摩市	稲城市
西東京市	東久留米市	小平市	東大和市	武蔵村山市	清瀬市
府中市	小金井市	国分寺市	国立市	立川市	八王子市
日野市	青梅市	福生市	昭島市	あきるの市	羽村市

④町・村議会 ⇒ 3議会中3議会(75%)

日の出町	奥多摩町	檜原村			
------	------	-----	--	--	--

口は7、426万人を数えることになり。換言すれば、7、426万人9千人の人の願いが込められた「こころの健康基本法」の法制化を望んでいると言っても過言ではないと確信します。

この72万筆をこえる署名およびこの226議会も意見書採択数は、法制化に向けた大きな力になることは間違いのないものと思います。

現在、このような背景を持った国民的要求として今通常国会中の6月6日の国会請願署名提出に向け、議員会館でのロビー活動など精力的に活動を行っております。

「こころの健康基本法」の目指すところは、国民が個人としての尊厳を保持し、精神的に充実した日常生活または社会生活を営むことのできる環境を作ることにあります。

今号の「つくしだより」が皆様のお手元に届くこころの吉報を祈っております。



私たちの求める家族支援

—みんなねっとフォーラムから—

都連理事 小川 順子

この日、私の属しているオリーブ会から飯塚副会長が参加しました。次にその感想の一部を「オリーブだより」より紹介します。

「朝から冷たい雨が降り、梅の蕾も固く閉じ、行くのを止めようかと思っただ程でした。何とか到着し、次々と多くの方々が集まりホールは満員で、お話を聞きながら来てよかったですと思うような会でした。今回の内容と関連して思わされたことですが、日ごろ、知り合いの子が読んでいてよく知られている『泣いた赤鬼』を思い出しました。鬼には生まれてきたが・・人間たちの仲間になって仲良く暮らしていきたい・・赤鬼がそう思って村人に親しまれようと苦労をします。この本からは、私たちが現実には直面している問題が、登場人物を通して立ち上がって飛び出してくるような感じがしました。」

4月の定例会はシンポジウムのテーマ「それぞれの経験から家族支援を考える」に沿って懇談会を持ちました。①はじめに『泣いた赤鬼』（浜田廣介・文）の絵本を読みました。

②「親の立場」では息子さんの退院を機に、別々の生活をし、子供の自立を社会に託す決

心をされた母親の話でした。③「子の立場」

については、静岡県の小都市で精神科の診療所（やきつべの径診療所）を夫とともに開業されている夏苺郁子医師が医学雑誌に掲載された「精神科医として、そして統合失調症の子どもとして」—これからの家族支援を考える—の手記を輪読しました。子供が患者の場合、親が「自分のせいでは」と罪悪感を持ちますが、親が患者であると子供の思いはその逆で親に恨みを持つことになりやすく、母親に対する嫌悪感が母親に会うことも電話に出ることも拒絶し続けたそうです。その結果徹底的な自己否定感をもたらし、苦しまりました。そこから回復されたのは、中村ユキさんの漫画『わが家の母はビョーキです』に出会いまたユキさんとの交流でした。「悪いのは自分でも誰でもなく、病気への『無知』だった」と捉え直す事ができて自己否定感が癒されました。

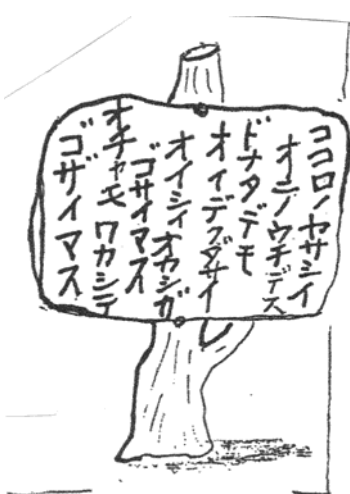
その後3グループに分かれお茶とお菓子で楽しく懇談をしました。今回は、○警察・保健所・医療者など公的な機関に協力を求めて助けられた実例。○グループホームに入り良いスタッフに支えられ満足な生活をしている。などテーマに沿って展開し、良い定例会になりました。

次に飯塚さんの書かれた定例会報告文を

同じ「オリーブだより」から紹介いたします。

「フォーラムでのお話は、私たち家族がどのように表現したらよいか判らない程の思いをして過ごしてきた姿と重なり、あの時、正しい病気の知識を持つていたなら・・もっと早く医療につなげることにできていたらと、この早期支援の一つ取っただけでも、この苦しみを次の世代に繰り返す事がないように、これからは、家族だけで必死に頑張ってきた問題を社会の中で取り上げ、本人も家族も幸せに過ごす事が出来るように叫ばずにはいられませんでした。今、どのような家族支援を私たちは望むのか、また誰がどのように、何をするのが家族支援なのか、そして自分は何をしたらよいのか、多くのことを自問し、これからも家族会で話し合いを続けていきたいと思いつながりの懇談でした。」

終わりに関永さんのフルートに合わせて春の唱歌を歌いました。



家族会紹介

あかね会

(世田谷区)



5月号より引き続きあかね会訪問記をお伝えします。

どんな活動

会の主な活動内容をお聞きました・・・

● 毎月の例会開催

● ニュース・機関紙(会報)

発行

● 家族同士の相談・交流

● 行事(バザー・旅行・コンサート等)と関係団体との連携

● 行政への働きかけ

● その他

家族の相談や会のPR活動に力



特筆すべきことは、平日毎日4〜5名ずつの役員が事務所に詰めての相談を含め在室。凄いことですね！ 会の活動を支える大きな場となっていることに注目します。また、入院棟入りロビーの一角に、会のコーナーがあり、役員が笑顔で挨拶しながら、パンフレット・書籍や小物ミニ販売など、PRにも力を入れていることです。病院患者家族会としての特徴もここに見られます。

会長の思いは

新谷会長は、「初めて相談などに訪れる方は、それぞれ大変な状況を抱えて来室してく

る・・・」と語ります。

「この家族会は、役員のみならず皆で支え合い、それを力にして、協力し合える関係を大事にしています。これからも楽しく運営していきたい・・・」と、にこやかに抱負を語ってくれました。この精神と思い、他の家族会でも大いに参考にしていきたいですね。

長い歴史で、負の要因もあった

50年に及ぶあかね会の歴史。前会長は、プラス面だけでなく負の要因もかつて有ったと・・・と、表情をあらため、その内容を私たちに話してくれました

約40年前に起きた、病院内を二分にした当時の「烏山病院紛争」を振り返りました。

家族会も分裂状態。病院にとって、患者にとっても大きな事件。家族会として、数度の声明を出すなど、院内にとどまらず、精神医学界そのものが大きな混乱した時期だった・・・と、いくつかの状況を例に挙げ、回想しました。

先駆的な事業と地域への広がり

あかね会はこれまで、先駆的に(昭和60年)共同作業所や共同住居を立ち上げ・運営などの事業も病院と連携し、後援会組織を作り行ってきました。

昨今(平成21年)では、地域に「心に病を持つ方たちが安心して集える居場所」

ポケット」の後援組織としても関わり、会の活動領域も広がりをみています。

学びながら地域ともつながっていける会として

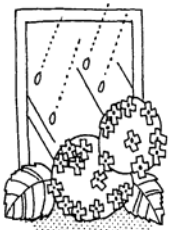
最後に、あかね会副会長で、東京つくし会役員を務める松原さんは、「つくし会に関わり6年。精神科医療と地域福祉、また、国や行政の動向が良くわかるようになり、勉強になる。あかね会も、楽しい行事とお互いの学習、そして、地域ともつながっていける会としてこれからも皆と力を合わせていきたいですね・・・」と明るく語ってくれました。

訪問感想

訪問感想として、あかね会は辿ってきた経過・活動内容は病院家族会としての特徴が随所にみられたことと、半世紀に及ぶ会の歴史は、精神科医療・制度・施策と密接不可分の関係にあることが良くわかりました。

また、この間の活動は記録・資料としてきちんと整理、保存されていることに感嘆するとともに、組織運営の基本を知ることにもなり、訪問する側が大いに励まされました。

東京つくし会支援者 安田 學



平成23年度 第3回 東京つくし会 多摩地域ブロック会議報告

都連理事 増田公子

2012年3月31日(土) 府中市 ふれあい
会館で多摩ブロック会議が20団体33名出席
で開催されました。

テーマ「国および都の政策から見えてくるア
ウトリーチと家族会が求めるアウトリーチ
とは」 最初につくし会野村会長からの国や
東京都の全般的な動きの報告等の後、左記の
ような活発な意見が取り交わされました。

家庭内暴力は急を要する。医療拒否の場合
は病院に連れて行くのが大変。ある事例では
家族会活動で顔を見知っている方の支援が
あり医療・行政などにつなげられた。家族会
も、地域の中で具体的な事例を積み上げるこ
と。家族も成長して支援者の一員として尊重
されるようになりましょう。精神障害はサー
ビスの利用が少ないが、力もあり数も多い他
障害と一緒に動くことが大切ではないか。

支援関係者が地域のアウトリーチに入っ
て皆で身近な市町村に私達の求めるアウト
リーチサービスを伝えていきましよう。

確かな方向性が見え、元気を得たブロック
会議になりました。



講演会のお知らせ

主催者名	日程	内 容
世田谷さくら会 Tel: 03-3308-1679	6/23(土)	成年後見制度 さくらハウス 統括責任者 烏山 克広氏
品川区かもめ会 Tel: 03-3450-5207	6/23(土)	精神疾患と共により良く生きる 品川区地域生活安定化事業担当医 精神科医 波多野 美佳氏
新宿フレンズ 03-3987-9788	7/14(土)	東京都が抱える精神医療福祉の原点 (仮題) 東京つくし会会長 野村 忠良氏

※参加申込み、お問い合わせは、それぞれの主催者へお願いいたします。

編集後記

今年は、大雪、豪雨、竜巻と被害も多
く、夏は節電と不安な日々。でも墨田区
では青く光る約10万個の発光ダイオード
をホテルに見立て、隅田川に浮かべるイ
ベント、そして東京スカイツリーの話
で、毎日テレビ、新聞を賑わせています。
前日の雨も上がり、晴天の5月5日、
内覧会にすみだ会も招待を受け、素晴ら
しい景色に感動しました。

来月は東京つくし会の評議員会、3ブ
ロック交流会が行われます。多くの会員
の方、参加お待ちしております。

都連理事 三浦 八重子



★賛助会費★

江端 洋様	1口	2,000円
竹村 堅次様	1口	2,000円
北小岩診療所様	1口	3,000円
目黒区ひのき会様	4口	20,000円
大田つばさ会様	1口	5,000円

ありがとうございます。

(東京つくし会の賛助会費は、個人会員1口
2,000円、病院・団体1口 5,000円、
診療所・クリニック3,000円です。どうぞ
よろしく願います。)

(平成24年5月1日〜31日現在)